

会議名	麻布地区地域情報紙「ザ・AZABU」編集業務委託 第3回事業候補者選考委員会	
開催日時	令和8年2月27日（金曜日）午後6時30分から午後7時30分まで	
開催場所	麻布地区総合支所2階第3会議室	
委員	麻布地区総合支所長 太田 貴二（委員長） 麻布地区総合支所管理課長 鳥居 誠之（副委員長） 企画経営部区長室長 富永 純（委員） 麻布地区総合支所まちづくり課長 江川 智美（委員） 麻布地区総合支所区民課長 川口 薫（委員）	
事務局	麻布地区総合支所協働推進課	
会議次第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 プレゼンテーション及びヒアリングの実施 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会	
配付資料	資料1	第二次審査実施概要
	資料1別紙	第3回事業候補者選考委員会進行スケジュール
	資料2	第二次審査採点基準表
	資料3	第一次審査・第二次審査集計結果
	資料4	第2回選考委員会議事録概要
	参考資料1	第一次審査集計結果
	参考資料2	麻布地区地域情報紙「ザ・AZABU」編集業務委託事業候補者選考基準
	参考資料3	仕様書（案）
会議の内容		
（発言者） 委員長	1 開会 （開会の挨拶）	
事務局 委員長 一同	2 第二次審査実施概要について 資料1について説明。 実施概要について質問はあるか。 なし。	
委員長	3 プレゼンテーション及びヒアリングの実施 A事業者（プレゼンテーション10分以内、質疑応答20分程度） 質問をお願いします。	

A委員	企画書の業務実績で現在ザ・AZABUの編集業務を受託していると記載があるが、今後も業務を担うことになった場合、これまでの反省点や改善点を踏まえて、より良いものにするための考えがあれば教えてほしい。
A事業者	これまで、原稿提出の締切を守れず、提出が遅れてしまう編集委員がいたことを課題と認識している。今後は遅れないよう、ツールを活用し、事前のスケジュール管理を徹底していきたい。
A委員	編集委員は約20名おり、それぞれ多様な考えを持っているが、そうした委員を支援していくうえで心がけていることがあれば教えてほしい。
A事業者	編集委員は経験や委員歴がさまざまであり、事業者側から意見を押し付けることはせず、委員一人ひとりの地域への強い思いを尊重しながら寄り添って進めるようにしている。
B委員	企画提案書に記載された人物像の例示に対して、経験や関心を引き出す方法としてアイスブレイクを挙げているが、やや一般的な手法に感じられるため、示した人物像に対して、どのような工夫ができるのか。また、アイスブレイク以外に活用できる方法があれば併せて教えてほしい。
A事業者	会話の中から趣味や地域に関する話題など、心を開いてもらいやすいテーマを取り上げ、そこから自然にザ・AZABUへ話をつなげていくよう努めている。また、継続的にコミュニケーションを取りながら関係性を構築している。
B委員	プレゼンテーションにおいて示されていた、編集委員一人ひとりのやり方に応じた支援や、多様性を踏まえた柔軟な対応力など、A事業者の強みとされる点について教えてほしい。
A事業者	原稿作成でいえば、提出の形式がデータの場合もあれば手書きの場合もあるなど委員ごとにスタイルが異なるが、印刷会社で培った経験を活かし、情報を整理し、わかりやすくまとめることを心掛けている。
C委員	編集委員のモチベーションが下がる場面もあると思うが、そのような委員に対してどのように関わっていくのか。
A事業者	委員が執筆した記事がどのように地域へ届いているかを共有することで、活動の意義を感じられるようにし、意欲向上に繋げたい。 また、企画会議で自身の企画が不採用となることでモチベーションが下がる場合も想定される。改善点や代案を具体的に示し、企画が採用されるようサポートしていきたい。
C委員	様式9のスケジュールに記載された「進捗を可視化する共有ツール」によるスケジュール管理について、ツールの使用に不慣れな委員への個別フォローをどのように行うのか。
A事業者	導入を予定しているツールはあるものの、編集委員との話し合いの上で、使

	<p>いやすいものがあれば、別のツールを使用してもよいと考えている。そのため、従来の方法が良いという委員がいれば、これまでのやり方を継続することも可能。</p>
C委員	<p>事業者概要に「広報東京都」に携わった経験があると記載されているが、その中で評価の高かった取り組みや、ザ・AZABUに活かせる点があれば教えてほしい。</p>
A事業者	<p>「広報東京都」では紙媒体を手にとらない層へのアプローチに力を入れており、SNS上で拡散力のある人物を選定し、提案している。</p>
D委員	<p>ディレクターのうち1名はザ・AZABUの従事経験があるとのことだが、今後の従事予定者の役割分担について具体的に教えてほしい。</p>
A事業者	<p>サブディレクター、カメラマン、デザイナーについては、これまで業務を担当してきたメンバーを引き続き配置する予定である。一方、ディレクター2名のうち1名はザ・AZABUの従事経験がない新たな職員を配置するが、若い職員を起用することで、長年の担当による固定化した考えを刷新し、新しい視点を取り入れていきたい。また、今後も継続的に体制を維持していくため、人材育成の観点から新しい職員を配置した。</p>
D委員	<p>取材初心者の場合は企画のアイデアが浮かばないこともあると思われるが、そのような場合どうサポートしていくか。</p>
A事業者	<p>取材にはディレクターが同行し、初心者に対しては取材の際に使用する質問表の作成や、取材対象者の情報整理を共に行うなど、準備段階から支援していく。</p> <p>また、ザ・AZABUは長い歴史を持ち参考となる記事が多く、企画のアイデアが思いつかない場合には、まずは過去の記事を参考にしながら取り組むことを助言している。</p>
委員長	<p>紙媒体を手にとる人が減っている状況の中で、どのような工夫をすれば手にとってもらえるのか、また、区として取り組むことで効果が期待できる点があれば教えてほしい。</p>
A事業者	<p>多くの自治体が同様の課題を抱えており、紙媒体を手にとる機会そのものが減少している。そのうえで、弊社では保存性や実用性のある紙面づくりを重視しており、例えば防災の備えに関するチェックリストを添付するなど、保管してもらいやすい工夫を提案している。また、若い世代のみをターゲットとするのではなく、家族全体を巻き込む提案を意識している。</p> <p>さらに、保存性の観点からはデザイン面も重要であり、キャッチーな見せ方を心掛けている。企画提案書で示したように、同じ場所でも撮影する時間帯や視点を変えることで大きく印象が変わるため、そうした工夫が紙面の魅力向上に繋がる。</p>

委員長	編集委員は経験や委員歴がさまざまで、提出される原案も多様な書きぶりになると考えられるが、紙面として統一した文章に仕上げていくまでのプロセスを教えてほしい。
A事業者	現在は編集委員同士で記事を完成させており、経験の長い委員が原稿の確認を行ったり、作成を分担したりしている状況で、不慣れな委員には短い記事を担当してもらうなど工夫している。 今後については、事業者側から書き方に関するアドバイスを行うなど、より記事作成を支援する体制を整えていく。
事務局	時間になったため、A事業者は退出を。 (A事業者退出)
事務局	4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 資料3について説明。 (集計結果 A事業者 第二次選考270点、合計852点)
委員長	各委員から講評をお願いしたい。
B委員	既存のイメージを大きく変える提案までは感じなかったが、業務を一定水準で問題なく安定して遂行できる能力があると感じた。
C委員	事業者の考え方や姿勢は理解でき、そつなく対応できる印象を受けた。 採用されなかった企画への再挑戦する姿勢や今後は時代を捉えた提案が期待でき今後の発展性を高く評価した。
D委員	ザ・AZABUに関する実績が豊富で、編集委員の気持ちや作業の特性をよく理解している点を評価した。 さらに、ディレクターが現場をよく把握し、編集委員に寄り添う姿勢が感じられた一方、1名のディレクターの負担が大きく、体制の厚みについては今後の課題とした。
A委員	業務内容の理解は十分で、これまでの業務実績を踏まえても遂行に問題はないと感じたが、発展性については現状維持型に近く、大きく伸びていくイメージはまだ薄いと感じた。
委員長	長年の経験から、一定の品質を確保できる力量があるが、時代も変化してきている。従来通りでは編集委員の自己満足に終わる紙面になる懸念があるため、事業者にはより積極的な改善提案を期待している。 各委員の意見を踏まえて、意見や点数の修正があるものはいるか。
C委員	提案の発展性について、他の委員の意見を踏まえ再考した結果、4点を3点に修正し、逆に取組意欲については3点を4点に修正したい。

<p>事務局 委員長</p> <p>一同 委員長</p>	<p>承知した。</p> <p>審査結果や各委員からの意見から総括し、当委員会としては、A事業者を事業候補者として選定するが良いか。</p> <p>異議なし。</p> <p>では、A事業者を事業候補者として選定する。</p>
--------------------------------------	--